

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.65 (2021.8.27)

令和3年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
生産性の向上で働き方改革の実現
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

当社が掲げている社是は「不易流行常念必現」です。前半の「不易流行」はタイトルでもあり、これまで何度も皆さんにお話して参りました。守るべきものは守り、時代と共に変化しなければならないものは変えていく、この事こそが企業存続の原点であるということです。経営の経とは仏教のお経と同じで変えてはならないものですが、営は営みすなわち商売の事を表します。つまり商売は時代の変化に対応して変えていかねばならないということです。一方でこれまでは「常念必現」についてはあまり話していませんでしたが、日本電産の永守重信社長がある書籍で次の様に述べておられました。

「信じる通りになるのが人生であるということですね。僕はこの言葉を自分で色紙に書いて、目のつくところに置いています。自分でこうなりたいと思っていることもなれないのに、思わないことが実現するわけは絶対にはないですから・・・、しかし世の中の人みんな信じない。頭の良い人ほど先が見えるから信じません。できるわけがないと思ってしまう、だからむしろ鈍才のほうが教育しやすいですね」

創業間もないころの日本電産は、難しい仕事しか受注できない時期が続きました。技術者にできるか聞いてみると全員が「無理です」と答えたそうです。そういう時はみんなを立たせて全員で「出来ます、出来ます・・・」と100回繰り返し、そして「どうだできるか」と聞くと「いやできません」と答える。今度は千回皆で言う・・・。すると不思議なことにだんだんできる気分になって来たそうです。そこで一気に試作に取り組んでみると、顧客の要求する性能には及ばないもののかなりのレベルの製品ができるようになり、こうしたチャレンジ精神により企業として技術力が蓄積されていきました。この時期に「無理だ・不可能だ」とあきらめていたらとくに倒産していただろうと言います。

永守社長は「物事を実現するか否かは、まずそれをやろうとした人が、“出来る”と信じることから始まる。自ら出来ると信じたときにその仕事の半分は完了している。」と社員に話しているそうです。

常念必現とは常に念じていれば必ず実現するという意味で、英語では Dreams come true! 「夢は実現する」という言葉もあります。しかし実際にはその想いを声に出して周りの人も巻き込んで行くエネルギーがなければ達成できないものだと言永守社長は教えてくれます。私たちも仕事上日々様々な困難に直面することがありますが、「出来ない・無理だ」と思い思考停止してしまえば可能性はなくなり、打つ手はないのかと全員で必死に知恵を絞りだせば道はひらけるのだと思います。

建設フェスタ	七夕絵灯ろう祭り	事業所訪問	山の日コンペ
7/26～30日までの5日間、湯沢翔北高校雄勝校を会場に高校2・3年生28名が参加して建設業体験フェスタが開催。来年度以降多くの高校生に建設業を選択して欲しいと思います	今年の七夕祭りもコロナで中止となってしまいました。祭り期間中本社のウィンドウに絵灯ろうを飾りました。来年こそは絵灯ろうを眺めながらみんなで生ビールを頂きたいと思います。	9/16の解禁を前に、これまで高校生4人が職場見学に来て頂きました。来年4月からの新しい仲間期待です。	8/8日曜日39名の参加者で第6回和賀組山の日コンペが開催。優勝者は高瀬電設安倍さんでした。来年は8月11日の予定です。
			